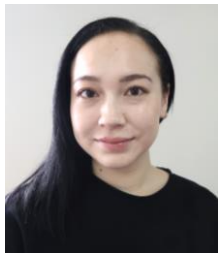


<ボランティア・寄付推進事業（街頭募金）> 「一人ひとりの力があれば明るい世界は実現できる」

ICAN 日本事務局
鈴木 清香 ジーン
～プロフィール～
愛知県の私立大学卒業後、フリーランスとして働く。事務局インターンとして 2020 年 8 月より現職。

私は 2020 年 8 月から、日本事務局のインターンとして活動をしてきました。中学生の頃から世界情勢に興味があり、大学卒業後のキャリアを考える中で、様々な問題解決に携わっている NGO でインターンをしたいと思うようになりました。勇気を出して応募したアイキャンに入職した時は、ずっと興味があった国際開発事業に関わることのできる喜びと、自分の行動が困っている人々の役に立つかもしれないという嬉しさでいっぱいでした。

念願の NGO での日々の業務は、自分のできることに全力で取り組みました。様々な業務の中でも、特に毎月実施される街頭募金活動には力をいれました。ボランティア参加者への呼びかけや当日のオリエンテーションなど、責任感を持って実施しました。また、活動中はアイキャンの代表として、緊張感と使命感を常に持つように意識していました。インターンを始めて数ヶ月たつと、アイキャンに対する想いも日に日に増しているのを感じました。日々のミーティングで、事業地が直面している問題を直接的に知ることができていたので、「1円でも多くの資金を集めて困っている人を助けたい」という想いは入職当初と比べてかなり強くなっていました。

一方で、街頭募金活動を続けていくうちに悩みもできました。募金が集まらず、活動に関心をもってくれない人々を目の当たりにして、「苦しんでいる人がいるのに！」と感情的になり、ファンドレイジングの大変さや人々に共感してもらうことの難しさを痛感しました。また、知人から「募金活動なんて偽善活動だ」とまで言われてしまい、辛いと思うときもありました。様々な想いが駆け巡り、よりよい街頭募金活動を行うにはどうすればいいのか、たくさん葛藤しました。そんな中、先月（4 月）実施した街頭募金活動では、雨の中呼びかけを頑張ってくださいるボランティアの方々や、応援の声をかけてくださる募金者を見て、勇気をいただきました。できることを

行動に移す一人ひとりの力を感じ、胸が熱くなり、こうやって協力してくださる人への感謝の気持ちを忘れず、またそういう人々を大切にしていこうと改めて感じました。

インターンとして、街頭募金活動以外にも、クラウドファンディングの実施や広報、日々の会議への参加など様々な業務を経験しました。そのような活動を通して、周りの支えがあってこそアイキャンがあること、国際協力というものは一人ひとりの意識が積み重なって成り立つものだ学びました。そして支えてくださる人々が増えていけば、世界はどんどんよりよい場所へなっていくのではないかと、この数ヶ月間で実感しました。私自身、そしてこのレポートを読んでくださっている読者一人ひとりも、よりよい世界を構築していくことのできる人の一人なのです。私は常にそのような意識をもちながら、支えてくださる皆様への「感謝の心」を忘れずにいきたいと思えます。

**フィリピン事業**

4月16日/サンマテオ（フィリピン）

「子どもの家」で入所オリエンテーションを実施

4月16日、アイキャンが運営する児童養護施設「子どもの家」では、新しく入所した5名の子どもの対して、施設における規則や日々の活動に関するオリエンテーションをしました。入所した子どもたちからは「他の施設だといじめられることもあったので、ここではお兄さんたちが優しく遊んでくれて嬉しいです。」等の声が聞かれました。

等

ジブチ事業

4月/アリアデ・ホルホル・マルカジ（ジブチ）

感染対策をして「子どもの広場」の活動継続

ジブチにある3つのキャンプでは、感染対策をして、4月は計51回の「子どもの広場」の活動を実施し、5歳～13歳の計503名がお絵かきや長縄を楽しみました。難民スタッフは「子どもたちの接触を減らすため、長縄やお絵かきを中心に実施している。人気の遊びはサッカーだが、今は実施できない。1日でも早く実施できたら嬉しい。」と話してくれました。

等

能力強化事業（国際理解教育）

4月28日/名古屋（日本）・ジブチ

ジブチ駐在員へのオンラインインタビュー

ジブチ駐在の日本人職員が、名城大学付属高等学校の生徒3名からジブチ事業と難民キャンプについてオンラインインタビューを受けました。インタビューでは「トイレの衛生環境を教えてください」「生理の時はどうしていますか」等、生徒の皆さんが注目されている衛生やジェンダーの分野から難民キャンプの課題を探究する姿勢が印象的でした。

等

国内事業（長野・自然災害）

4月/長野（日本）

洗浄された写真が返却されました

長野県社会福祉協議会、及び長野市の福祉事業所と連携して実施している写真洗浄活動では、現在6つの福祉事業所とボランティアの方々の協力を得て作業を進めています。写真を返却した住民の方からは「こんなにきれいにしてくれて嬉しい。新型コロナウイルスで大変な中写真洗浄してくれている皆さんには頭があがらない。」との声を頂きました。

等